

「特異日ってご存知ですか？」

【第20回】特異日ってご存知ですか？

航空気象群ホームページ「気象の杜」をご覧ください、誠にありがとうございます。今回は、航空自衛隊芦屋基地に所在する芦屋気象隊から特異日について紹介します。

皆さんは、特異日について聞いたことがありますか？例えば祝祭日であるスポーツの日（旧体育の日：10月10日）と文化の日（11月3日）などは、天気予報など気象関連のニュースで「晴れの特異日」として紹介されることもあり、気象に詳しくない人も聞いたことがあるかと思います。また、特異日は日本だけでなく、例えば英語ではシンギュラリティー（Singularity）と言われ、世界的な概念のようです。一般的には「ある気象状態が、その前後の日と比較して、偶然とは思われないほど高い確率として現れる日」という意味で使われています。また、特異日の種類は「晴れ」、「雨」、「猛暑」、「台風の襲来」などがあるといわれています。一方、気象学的な定義はなく、気象庁でも特異日に関する定義は無いようです。

このように、一定の認知度はあるが定義が曖昧な特異日、その中でも「晴れの特異日」は関心が高いようで、ネット上でも紹介される例が多いほか、地域によっても特異日は異なり、気象に関心の高い人たちが地域ごとに過去数年から数十年のデータを基にSNSで紹介するなど、一定の支持があるようです。このように特異日の中でも「晴れ」に関心が高いのは、その需要が高いことに起因していると推察できます。何か重要なイベントが控えているとき、その日程を決めなければならない時、天気という要素が多大な影響を与えることは説明するまでもありません。

さて、航空自衛隊において重要なイベントといえば一例として航空祭があります。皆さんは航空祭に来場されたことはありますか？実はその日程を決定する際、各基地に所属する気象隊では、過去数年から十数年の特定の日の天気について前後数日も含め分析し、航空祭の日程決定の一助となるよう統計資料としてまとめています。不思議ですが過去の天気を調査すると、ある特定の日が偶然とは考えられないほ

ど「雨」であったり、「晴れ」であったりします。前述のとおり、気象学的には説明できないものの、航空祭の日程決定の際には、気象情報として不思議な説得力を発揮し、参考資料として利用されています。

皆さん特異日について少しでも関心をもっていただけただけでしょう。何か重要なイベントの計画などありませんか？その日程は決まっていますか？皆さんのお住まいの地域も、気象庁が提供している各種データ・資料にアクセスし、誰でも過去の天気を調べることができます。お住まいの地域を調べてみると、偶然とは考えられないほど「晴れ」でイベント開催にぴったりの特異日が見つかるかもしれません。



(芦屋基地広報より)